

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 北浦 祐衣

1. はじめに

2017年7月30日(日)から同年8月3日(木)までの期間、本学国際交流基金の助成を受けて、台湾の桃園市にある Chang Gung University Campus(写真1)で開催された第7回アジア粉体工学シンポジウム(The 7th Asian Particle Technology Symposium(APT))に参加し、自身の研究成果について発表したため、報告する。



写真1：Chang Gung University Campus (Taoyuan, Taiwan)にて

2. 粉体工学会とは

粉体工学とは“粉”に関する研究や技術の開発を行う学問分野である。粉体の物理的・化学的基礎特性の研究と、粉体に関する工学的試験・計測、それを基礎とした粉体の製造、処理操作と装置などを対象としている。粉体工学会では、毎年春秋の研究発表会や夏期シンポジウムなどの各種行事を行っている。

3. 学会発表内容

8月1日に行われた発表について記載する(写真2・3)。私は、ウコンに含まれる成分である、クルクミンの溶解性改善効果についてのポスター発表を行った。日本人の先生方ははじめ、台湾・中国・インドなど様々な国の方々が訪れてくださり、ポスターについてディスカッションをすることができた。質問を聞き取ることもままならない場面も多く、自分の言葉で伝えることの難しさを改めて実感することとなった。しかし、このような状況

においても、私の話すつたない英語を理解しようと努力して下さる皆様の姿を見て、帰国後の学習のモチベーションが高まった。有意義な経験となった。

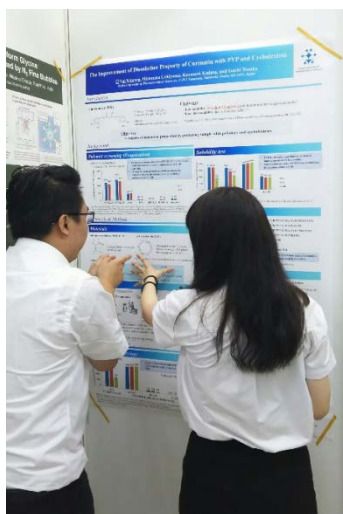
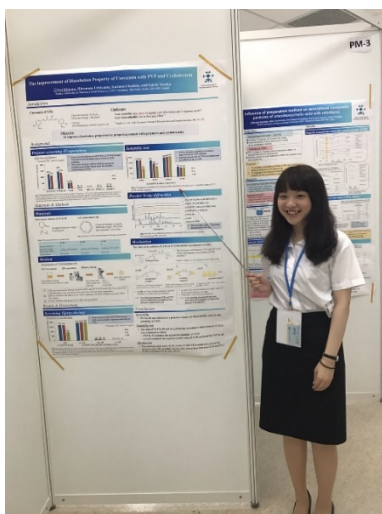


写真 2. 3 : ポスター発表風景

4. 台湾での生活について

台湾での学会中は長庚養生文化村(Chang Gung Health And Culture Village)(写真 4)に滞在した。学会の参加者の多くがこの長庚養生文化村に滞在しており、ビリヤードや卓球などができる施設も備わっており、インドや中国・台湾の方々と交流をする機会も多くあった。現地では出会った方々は、何事にも積極的であり、英語がたつなくても間違いを恐れ

ずにコミュニケーションをとっておられ、見習いたいと感じた。学会後は台北で小籠包を食べたり、国立中正記念堂を見学したりした。



写真 4 :
Chang Gung Health And Culture Village

5. おわりに

今回、国際交流基金の助成により、The 7th Asian Particle Technology Symposium に参加させていただくことで、自身の研究に関する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験をする事ができた。英語力やコミュニケーション能力についての課題は残るが、今回の経験を糧とし、今後の研究活動、語学学習に活かしていきたいと考えている。最後に、このような機会を与えて下さった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝を表し、報告とさせていただきます。